

経営比較分析表（平成29年度決算）

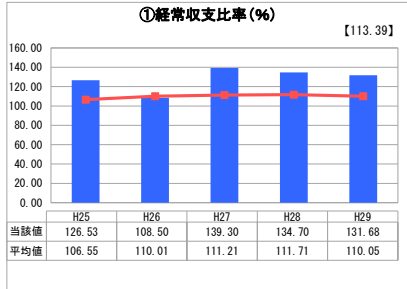
山形県 尾花沢市大石田町環境衛生事業組合（事業会計分）

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	74.60	73.92	4,320	

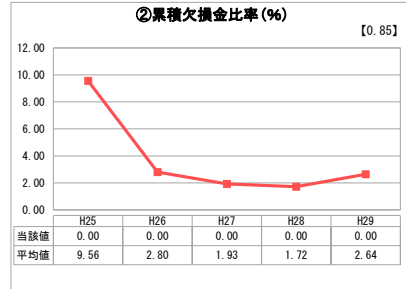
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,428	58.88	295.99

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成29年度全国平均

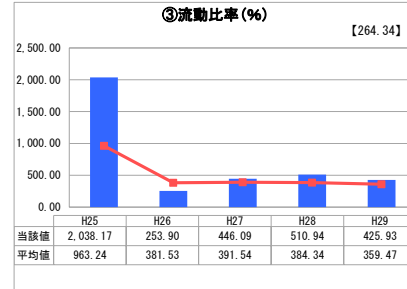
1. 経営の健全性・効率性



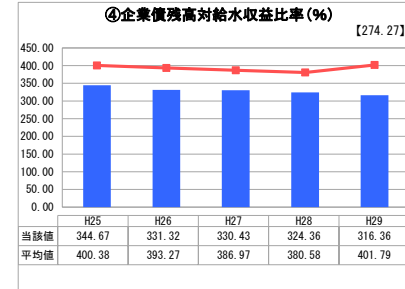
「経常損益」



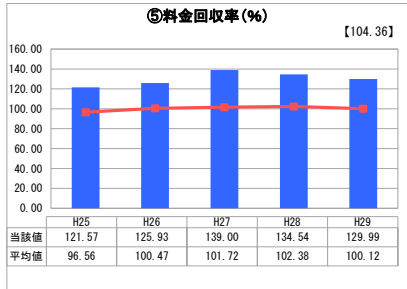
「累積欠損」



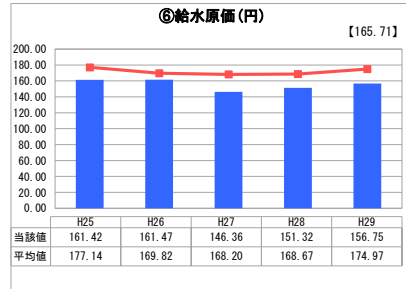
「支払能力」



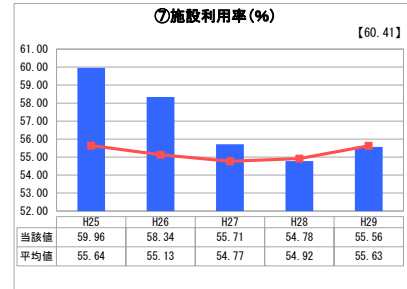
「債務残高」



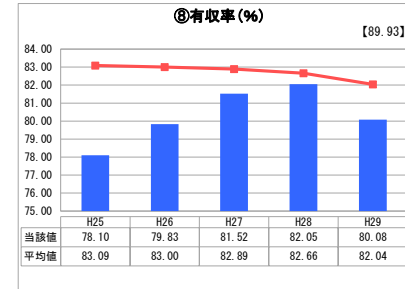
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

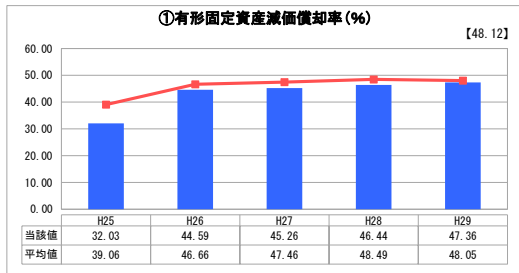


「施設の効率性」

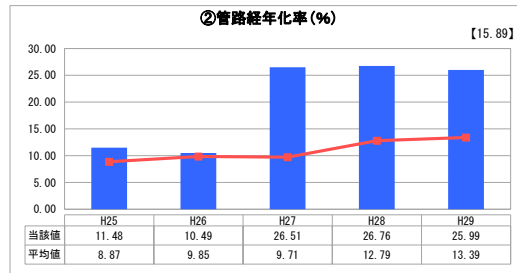


「供給した配水量の効率性」

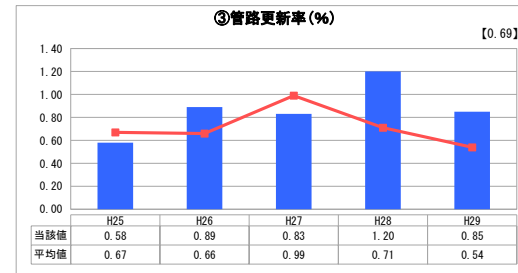
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は前年に比べて約2.3%減少しており、有収率は平均値を下回り前年と比較して約2.4%減少している。一方で、企業債残高対給水収益比率は平均値を下回り年々減少傾向にあることから、計画的な借り入れ、償還が行われていることが分かる。今後も事業の健全運営について継続的に取り組んでいく必要がある。

2. 老朽化の状況について

管路経年化率は平均値を上回っているものの、前年に比べて約2.9%減少している。また、管路更新率は前年に比べて約29.2%減少しているものの、平均値を大きく上回っている。今後も石綿管等の老朽管布設及び更新について計画的かつ効率的に取り組む必要がある。

全体総括

経常収支比率や料金回収率は平均値を上回っており、企業債残高対給水収益比率は平均値を下回り減少傾向にあることから、経営改善の努力が数値として表れている。一方で有収率は平均値よりも低いことから、漏水の早期発見・早期修繕等の取り組みが必要であると考えられる。

老朽化については、管路経年化率が平均値を上回っていることから、老朽管の布設替・更新が最大の経営課題であることが分かる。今後も多額の資金需要が見込まれるため、これまで以上に効率的な事業経営に努めなければならない。

また、将来的にも有収水量の減少が予想されるため、施設能力や劣化の状況を把握しながら、適正規模での施設更新を図っていく必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。